令和４年度　ふじえだ型ピア・サポート活動の取り組み

『友達の成長を見つけよう、伝えよう』

藤枝市立稲葉小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
４月	**「仲間づくり」ステージ** 縦割り班スタート　ピア・サポート活動紹介 クラスのピア・サポート掲示スタート **“みんなが見つけられるようにしよう”** くすのきタイム①	【学活】人間関係作りプログラム ①出会い	【職員会議】 共通理解、年間計画
５月	運動会　縦割り班での応援	【学活】人間関係作りプログラム ②聴き方	
６月	**「挑戦」ステージ** くすのきタイム② 地域の老人会との交流①（１・２年） 友愛訪問①（５，６年）・全校道徳	【学活】人間関係作りプログラム ①自己表現 心のアンケート①	
７月	自然教室（５年）	【学活】人間関係作りプログラム ④自分の気持ちへの対処・対応	
８月			
９月	くすのきタイム③ **クラスのピア・サポート活動をもっと盛り上げよう！！**	**学校生活アンケート**	
１０月	**「実り」ステージ** 学習発表会 修学旅行（６年） くすのきタイム④ 瀬戸谷小との交流（各学年）		
１１月	地域の老人会との交流②（１・２年） くすのきタイム⑤・全校道徳		
１２月	くすのきタイム⑥		
１月	**「感謝」ステージ** くすのきタイム⑦ 校内や地域の方に感謝する活動～３月 友愛訪問②（５・６年）・全校学活	**心のアンケート②**	
２月	くすのきタイム⑧ ６年生ありがとうの会 グリーンヒルズ藤枝との交流（３・４年）		
３月			

１　本校のピア・サポート

本校は全学年単学級の小規模校である。今年度の重点目標「自分で判断し、進んで行動する子」を受け、生徒指導を中心としたピア・サポート活動を展開している。全職員で子ども一人一人を把握し指導に向かえるよう、全学年の子どもを対象とした縦割り活動を計画・実施、全校道徳や全校学活（３学期に予定）を実施することで友だちの成長を見つけたり伝えたりしてきている。クラスのメンバーがほぼ変わらず進級していく子どもたちだからこそ、様々な経験をすることで他者意識を持たせ、多様性を受け入れていけるような活動を職員が働きかける必要がある。今年度は以下の６つの特徴的な活動を通して、子どもたちが他者を理解しながら自己肯定感を向上していくことを目的に取り組んだ。

２　特徴的な活動

①子どもたちの組織を生かす「くすのきタイム（縦割り活動遊び）」〈提言１・５・６〉

年間で５～６回設定。ロング昼休みを使って実施。１～６年生まで各学年1、2人ずつ分かれ、12のグループに編成した10人前後で活動。どの学年も遊びの計画から振り返りまで担当し、後日班のメンバー宛にメッセージカードを送ることも習慣化している。

②全校で取り組んだ「くすのきおそうじ」〈提言１・４・５〉

縦割り班のメンバーで清掃時間に分担された場所を掃除する企画を今年度初めて行った。低学年は高学年の黙って真剣に取り組む様子を見て真似をしようとする姿や、高学年は低学年に掃除のやり方をやさしく教える姿が多く見られ、来年度も継続していきたい活動の一つになった。

③「道徳コーナー」を各教室に作る。〈提言７〉

ピア・サポートを可視化し、子どもたちの取り組みを認める場として実施。道徳の授業と関連づけ、友だちを思いやる言葉（ふわふわ言葉）や相手を傷つけてしまうような言葉（ちくちく言葉）なども掲示し、普段の生活でもいつでも立ち返れるようなコーナーにしている。

④学級懇談会や学年だよりを通して、子どものよい現れを家庭に紹介〈提言３・８〉

各学年、学年だよりに年に１回、クラスでのピア・サポートを紹介する。学級懇談会では、写真やスライドで日頃の子どもの様子や成長したことを伝えた。

⑤学年に応じた地域の方々との福祉活動の展開〈提言４・８〉

お年寄りや地域の方々との交流をすることで、人を大切に思う心を育てたり、ふるさとのよさを実感したりする機会となった。今年度は１・２年生…よもぎ石磨き体験、老人会とのグラウンドゴルフと昔の遊び体験。３・４年生…グリーンヒルズ藤枝との交流。３学期にZoomによるリモート交流やプレゼントの交換する機会を予定。５・６年生…自分の住む地域のお年寄りと交流を深める「友愛訪問」を実施。学年の段階に応じた交流を行うことで、自分以外の人を思いやって考えようとする姿や優しく接する姿などが多く見られた。

⑥毎日の帰りの会での「ピア・サポート見つけ」〈提言３〉

帰りの会の時間を使って子どもたちが見つけたピア・サポート活動を共有。発表後に声を揃えてグッドポーズをしながら「ナイス！ピア・サポート！」と友だちを思いやった行動をしていた子に対して行っている。クラス内だけでなく、他の学年の友だちの名前が挙がることもある。毎日実施していると内容が同じだったり、いつも呼ばれる子が同じだったりと、形骸化してきているところもあるため、さらによいピア・サポートを共有していくためにはどんな工夫が必要か考えていく必要がある。

３　本年度の成果と来年度に向けて

子どもたちの中ではピア・サポートをすることはいいことだという意識はあるが、何のために、またはすることで何がいいのかという部分が曖昧になっていると感じる。来年度はピア・サポートをしたり見たりすることで“自分はどんな気持ちになったのか”まで考えられるような取り組みを考え、さらに自己肯定感が向上するような活動を提案したい。